



ペリー来航によって日本の歴史は大きく変わる。  
米国艦隊が現れたのは横須賀沖であった。ペリー提督は久里浜に日本初上陸し、翌年、横浜で日米間初となる和親条約を結ぶ。横浜は開港され、居留地がつくられ、急ピッチで街づくりが進む。その後、郊外の生麦で幕末の一大事件が起こる。明治の時代になってまもなく150年。横浜をはじめ県内各所には当時の歴史を偲ぶ遺産が数多く伝わる。

## 第5章

# 開国・近代化の 舞台となった 横浜と横須賀

# 久里浜沖に現れた4隻の米艦隊 日本の歴史を塗り変えた黒船来航



写真協力 横須賀市

## 米国との折衝役となった浦賀奉行所

日米和親条約が締結された嘉永7(1854)年の浦賀での異国船にまつわる役務を記した「異国船渡来一件」(国立国会図書館蔵)

### 浦賀奉行所与力の 中島三郎助が対応

嘉永6(1853)年、米国大統領の国書を携えたペリー提督率いる4隻の船が浦賀沖に現れた。うち2隻が、煙突から黒々とした煙を吐く蒸気船であった。その報告は浦賀奉行所から幕府に伝わり、浦賀奉行所与力の中島三郎助が対応する。

旗艦のサスケハナ号に乗艦した中島は、船や装備の大砲にも興味を示

す。メモを取っては熱心に質問する姿を見て、米国側の通訳・ウィリアムズは「奇抜な言動だ」と不審がったと伝わる。

このとき同行した通詞の堀達之助は、嘉永元(1848)年に漂着した捕鯨船の乗員から英語を教わり、日本で初めて英語を学んだとされる人物。ただし、堀が得意としたのは、当時国交があったオランダ語であり、乗船に際してはまず「自分はオランダ語を話せる」と英語で告げたとい

う。

サスケハナ号で対面した中島とウィリアムズの間には、ちょっとした因縁があった。

ウィリアムズはかつて、モリソン号の乗員として天保8(1837)年に浦賀沖にやってきたことがあった。砲撃を受けて上陸も許されないうまま追い返されたが、そのときの砲手が中島だったのである。

その後も中島は浦賀奉行所与力の香山栄左衛門と共に折衝に当たり、このときの経験から軍艦の製造と艦隊を持つ必要性を痛感。老中に意見

書を提出する。

中島の訴えを元に浦賀に造船所が設置され、中島主導でその年のうちに日本初となる洋式軍艦「鳳凰丸」が建造された。

その後、中島は戊辰戦争で蝦夷地に渡り戦死する。その志を継いだ荒井郁之助らの同士の働きで、明治29(1896)年に浦賀船渠株式会社

が創設された。浦賀の南に位置する久里浜には、ペリー上陸を記念した「ペリー公園」がつけられ、敷地内には伊藤博文の揮毫による記念碑と記念館が建つ。



明治時代に錦絵を数多く描いた五雲亭貞秀作「蒸気船全図 海上浦賀風景」。三浦半島沖をゆく外輪蒸気船が詳細に描かれ、背景には富士や大山も(国立国会図書館蔵)



文化文政期(1804~1830)の頃から日本近海に出没するようになった異国船から江戸を防備するため、海防の重要な役割を果たしていたのが浦賀奉行所である。現在、堀の石垣と表門の前にかかっていた石橋の伊豆石が4、5枚残るだけで、当時の様子を偲ぶことは難しい。



「浦賀猿島上総房州台場絵図」には、江戸時代末に浦賀周辺に築かれていた台場とそれぞれの距離が記されている。図上側が三浦半島(国立国会図書館蔵)



中島三郎助は一度黒船への乗船を拒否されたが、機転をきかせて同僚の香山栄左衛門を浦賀奉行、自分を副奉行と名乗り黒船に乗り込むことに成功した(中島三郎助資料室協力)



嘉永6(1853)年5月7日に発行されたペリーの日本遠征を伝える「絵入りロンドン・ニュース」。ペリー艦隊の日本派遣はヨーロッパでも注目された(横浜開港資料館蔵)



横須賀市制80周年を記念して建てられたペリー記念館。ペリー来航に関する資料や模型などが展示され、絵巻物や瓦版などから当時の人々の驚きなども知ることができる。

明治34(1901)年に米友協会によって建てられたペリー上陸記念碑。碑文の「北米合衆国水師提督伯理上陸記念碑」と書かれた文字は伊藤博文の筆によるもの。





咸臨丸は全長48.8m、全幅8.74m、排水量625tの木造スクルー蒸気船。日本人96人を乗せて浦賀港を出港。荒波や船酔いなどと共に航海。乗っていた幕臣の鈴藤晋次郎がその様子を絵にしている。福澤諭吉やジョン万次郎も乗船していた（CG成瀬京司）

## 世界的にも貴重な れんが製ドライドック

函館で戦死した中島三郎助の遺志を継いで完成した浦賀ドックは世界でも貴重なれんが製である。通常は非公開だが、「咸臨丸フェスティバル」や「中島三郎助まつり」などのイベント時には見学の手配が設けられている。ドックに近い郷土資料館とあわせて見学すれば一層理解が深まるだろう。

浦賀の入江を挟んで向かい合う位置に鎮座する叶神社。先に創建されたのは西叶神社の方で、江戸時代に浦賀村が東西に分かれた際、叶神社が分社された現在の姿になった。

平安末期、源氏再興を祈念した文覚上人が石清水八幡宮を勧請したのが始まりとされる。天保13（1842）年に建てられた西叶神社の社殿は、安房の彫り師・後藤利兵衛橋義光の作品に囲まれている。花鳥草木を表現した格天井や、向拝で参拝者を見守る龍など、その総数は230にも上る。

7（1860）年1月19日に浦賀港を出港した。途中荒天に見舞われたものの、翌2月26日にはサンフランシスコ港に到着。日本で初めて太平

## 浦賀から 米国に向けて 出航した咸臨丸

社殿を守る狛犬にも特徴があり、左右どちらも口を開いた形で見られている。対岸の東叶神社の狛犬は両方とも口を閉じていて、どうやら東西で対をなしているようだ。西叶神社の狛犬の傍らには、子犬のような小さな狛犬もいるのでこちらにも注目したい。

東叶神社の石段途中に生えている巨大なソテツは、源頼朝が伊豆から移植したという伝説を持つ。また、社務所裏にある井戸は、勝海舟が咸臨丸の航海安全を祈って断食を行った際にここで水垢離をとったものだという。

咸臨丸は江戸幕府がオランダから購入した洋式軍艦で、日米修好通商条約の批准書を交換するため、軍艦奉行の木村摂津守や、艦長格として勝海舟ら遣米使節団を乗せ、安政

洋横断を成し遂げた。無事に使命を完遂できたのは、勝の願かけのおかげだったのかもしれない。叶神社は願いが叶う神社としても知られる。



浦賀ドックに臨む愛宕山公園には中島三郎助の招魂碑が立つ。高台からは浦賀港が一望でき、咸臨丸の出港記念碑も。



通称「陸軍棧橋」と呼ばれるL字型の棧橋。周辺はボードウォークが整備され、浦賀港対岸の東叶神社を望む東屋もひと休みののにいい。

平成15（2003）年に閉鎖されるまで、1世紀以上にわたり約1000隻もの船をつくらせた浦賀ドック跡地。日本丸や海王丸もここでつくれた。



浦賀の郷土資料を展示する浦賀コミュニティセンター分館。p98の浦賀奉行所はじめ鳳凰丸や咸臨丸、ペリー艦隊などの模型も。入館無料。



毎年4月末に、咸臨丸の偉業を称えて行われる「咸臨丸フェスティバル」の様子。史跡案内など各種イベントが多数開催される。

東叶神社の裏山は明神山と呼ばれ、よく保全された自然林が残る。特にウバメガシの自生は県内でもこの明神山と城ヶ島だけ。ここが分布の北限とされる。



西叶神社社務所入口には「録絵」と呼ばれる白いレリーフが。「三浦の善吉」として知られた石川善吉の昭和初め頃の作という。



勝海舟が航海前に行ったという断食修行の正確な記録は残っていないが、その際に着用した法衣は東叶神社に伝わる（国立国会図書館蔵）



東西二つの叶神社両方お参りすると願いが叶うという。お参りにはボンボン船の愛称で親しまれる渡し舟が便利。海が入りこんだ浦賀では貴重な足だ。一般200円。

### Episode 逸話

## 叶神社に伝わる 見事な宮彫り

寺社の建築物に精巧に施された彫刻は「宮彫り」と呼ばれる。桃山時代から江戸幕末にかけて建築物に多用された日本独自の文化で、その芸術性の高さから海外からも注目されている。西叶神社には名工と名高い後藤利兵衛橋義光の作品が230以上も。未公開のものも多いが、本殿外観の棟木を支える「力神」は必見。その他、どこにあるか探してみるのもいいだろう。



利兵衛は江戸の後藤三三郎の門に学び、神社本殿の彫刻や山車、みこしなどを多く手掛けた。

## 海路の要衝に位置し 天然の良港を有する

「伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ、尾張名古屋は城でもつ」  
伊勢首頭の一節だが、これをもじると、近世の浦賀はイワシでもつていたといえる。

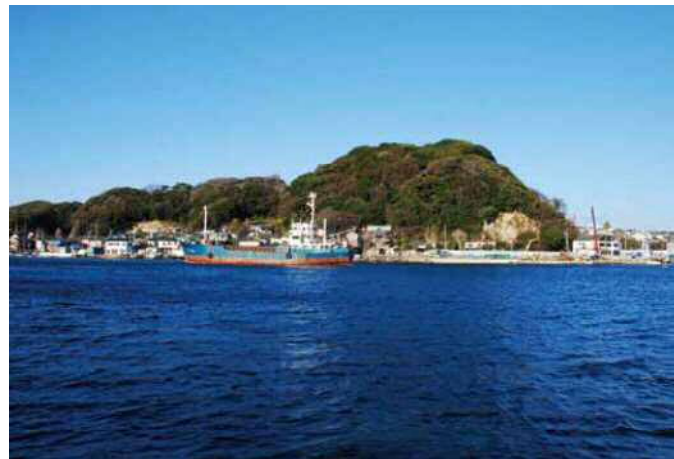
16世紀から17世紀にかけて綿花や菜種といった商品作物の栽培が規模を拡大する中、即効性のある肥料としてイワシやニシンなどの魚を干し固めた「干鰯」や「粕」(茹でたイワシを絞って干したもの)の需要が高まった。

東日本の代表的な漁場は房総半島と三浦半島沖で、そこで獲れたイワシは加工されて各地へ運ばれた。

その中継基地として、干鰯問屋や廻船問屋が集まっていたのが浦賀であった。浦賀は奥行きのある湾を有する天然の良港であると同時に、東京湾の出入口にあたる交通の要衝でもあった。

ピーク時には湊に集まる人々を相手にする銭湯や遊郭なども軒を連ね、浦賀は三浦半島の一大商都として賑わったという。

享保5(1720)年に浦賀奉行所置かれてから江戸へ出入りする船はすべて浦賀で船改めされた。廻船問屋も集まり街は発展する。以後、歴史の表舞台にも何度か登場。



### 横須賀のこんぶ

横須賀は神奈川のコンブ養殖発祥の地。付近の海は潮流が速く養分も豊かなため、上質なコンブが生産する。身質はやわらかく、独特の香りもあり、地元では人気が高い。北海道の「だしコンブ」と異なり、早く煮えて調理にも最適で、炊き込みごはんや佃煮として食べるのがおすすめのこと。「かながわの名産100選」。



### みうらの野菜

三浦半島は、日中は温暖で夜は冷えるという1日の寒暖差が大きいところ。ミネラル豊富な土壌はダイコンなどの野菜栽培に適している。特にキャベツは国の指定産地にもなっているほど。葉はやわらかく、シャキシャキしてみずみずしい。ホクホクしたカボチャも名物。それぞれ「かながわの名産100選」。



## その他おすすめ スポット&情報

### 三崎のまぐろ

三崎半島の先端に位置する三崎港は、刺身や寿司ネタに用いられるマグロの水揚げ港として知られている。漁港周辺にはマグロ料理の店がたくさん点在し、観光スポットにもなっている。県を代表する名産品として「かながわの名産100選」にも選出。



### 神奈川県立観音崎公園

東京湾に突き出た観音崎に広がる敷地面積70.4ヘクタールの自然豊かな公園。国内は照葉樹林で覆われ、野鳥や植物が多種類生息する。海や自然の情報を紹介する「観音崎自然博物館」や、海を見渡せるおしゃれなリゾートホテルも建つ。



### くりはま花の国

花がテーマの公園。春はポピー、秋はコスモスが100万本咲き誇る。約80種8000株が植えられたハーブ園や、ハーブがブレンドされた足湯も。充実した遊具もあり家族連れに人気。入園無料、無休。http://www.kanagawaparks.com/kurihama-perry/



## ミニコラム 水軍を有した三浦一族が 拠った海に臨む怒田城

治承4(1180)年、畠山重忠の軍勢と遭遇して退却を決めた三浦義明に孫の和田義盛は海に臨む怒田城での籠城を主張した。怒田城は久里浜の丘陵地を利用してつくられた平山城で防衛に優れた要害だった。義明は一族の本拠地である衣笠城での決戦を決断して討ち死にを遂げ、残された一族は海路で安房に逃れた。

鎌倉入りした源頼朝は義明の死を悼み、三浦一族を幕府の重臣として重用した。支族である和田氏や本家の三浦氏は頼朝の死後に北条氏との政争に敗れて滅び去ったが、分家の佐原氏は生き残り三浦氏を再興、戦国時代にその名を馳せた。



衣笠城が落ちる際、三浦一族は怒田城から船で安房を目指したという。船を置いたとされる「舟倉」という地名が残る。

## 散歴旅



## Course 12

### 久里浜沖に現れた 4隻の米艦隊 おすすめコース

- 〜 徒歩 (赤線) バス (緑線) 船 (青線)
- 京急・浦賀駅 → 浦賀ドック
- 郷土資料館 → 西叶神社
- 渡し船 → 東叶神社
- 渡し船 → 愛宕山公園 (中島三郎助招魂碑) → 陸軍棧橋
- 浦賀奉行所跡 → 燈明堂
- 燈明堂入口バス停 → 開国橋バス停 → ベリー公園 (ベリー記念館) → 京急久里浜駅、JR久里浜駅

## 干鰯問屋が 立ち並んだ 浦賀の街



2000本の桜を誇る県内有数の名所、衣笠山公園。ハイキングコースもあり三浦半島の自然が満喫できる。周辺は11世紀に築かれた三浦氏の居城跡。



慶安元(1648)年に幕府の命でつくられた燈明堂。菜種油で灯された光は海上4海里を照らしたという。雨風に崩壊していたが、昭和63(1988)年に復元された。